



消費者だより

第69号

令和5年
3月発行

発行所 高松市消費者団体連絡協議会 事務局：高松市消費生活センター 電話 839-2067 FAX 839-2464

今私たちが目のあたりにしている社会 「ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領」に学ぶ

高松市消費者団体連絡協議会 会長 橋田 行子

令和4年度エシカル消費講演会で、「エシカル消費で暮らしと地球を守ろう！」と元消費者庁長官の阿南久氏を迎え講演会を開催しました。「今私たちが目のあたりしている社会」について、コロナ禍、戦争の恐怖、あらゆる形態の貧困について、社会の現状や対策について講演していただきました。その中で「幸せの経済学」の話があり、開発と言う名の消費文化に翻弄されるラダックの人々の姿を追い、「本当の豊かさ」について触れていました。そんな中「世界で一番貧しい大統領」と知られるウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領が、2012年のリオ会議（地球サミット）で演説されたスピーチの言葉に出会いました。

『今日の午後ここでずっと話されていたことは、「持続可能な発展」と「世界の貧困対策」でした。けれど、私たちの本音は何でしょう？ 現在裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか？ ドイツ人が持つ車と同じ数の車をインド人が持てば、この地球はどうなるでしょう。息をするための酸素がどのくらい残るのでしょうか？ 裕福社会が持つ傲慢な消費を、世界の70億～80億の人ができるほどの原料が、この地球にあるのでしょうか？

今の文明は、私たちが作ったものです。世の中は驚くほど発展しました。私たちは、もっと便利でもっと良いものを手に入れようと、さまざまなものを作ってきました。なぜ私たちはこのような社会を作ってしまったのでしょうか？ 私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。

人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命より高価なものは、存在しません。しかし、必要以上に物を手に入れようと、人がもっと働くため、もっと売るために「使い捨ての社会」を続けなければならないのです。「生き方の危機に陥っていること」お気づきでしょうか？

「貧しい人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、もっともっとといくらあっても、満足しない人のこと」この言葉は、人間にとって何が大切かを教えています。』

ここまで抜粋した内容ですが、私は全文を読み終わり、なんだか涙が出る思いでした。

私たちは、余計なものを買うために、働いて人生をすり減らし、行き過ぎた消費主義で地球を傷つけ、さらなる消費を促してきました。そうしながら、持続可能な社会のための生活を考え環境活動を進めてきました。私たちはいったい何に追われているのでしょうか？ 周りの視線？ 誰かと比較すること？ 自問自答してしまいました。「本当の豊かさ」について改めて考える機会になりました。

